

いしかわ 「次代を創る可能性素材」展

- 開催日：令和2年12月11日（金） ※前日10日(木) PMより設営準備
- 開催時間：10:00～19:00（予定）
- 開催場所：WITH HARAJKU 3階 REFORK（東京都渋谷区神宮前1-14-30）
- 出展予定企業数：10社

出展小間内容

新型コロナウイルス感染防止の観点から、新しい形式の展示商談会を模索。「リアル」と「オンライン」を融合した、「半オンライン展示商談会」として開催する。（詳細は次ページ）また、12/11に来場できなかった方の為に、弊社ホームページ上に特設サイトを立ち上げ、出展企業の企業情報・出展商品を翌週より2週間限定でオンラインによる「いしかわ次代を創る可能性素材」展を開催する予定。

出展商品

「次代を創る可能性ある素材」をテーマとして、いしかわの合繊産地のテキスタイルを中心とした繊維製品に加え本年度はコロナ禍の中、新たに企業で開発された新素材・新商品展示。

新形式のメリット

出展者は会場に来ることなく自社にて商談ができ、また、来場はリアルな出展商品を手に取り、風合い、生地の色合いを感じて商品の良し悪しを吟味出来る。

集客

本年度はメール形式のDMを作成予定。各出展企業の顧客一人一人にメールにてご案内する。また、繊維業界紙（織研新聞社、織維ニュース）には開催の告知広告を依頼予定。更に、アパレルファッション産業協会主催「ビジネスマッチング商談会」が同日同会場にて開催されることから、アパ産協と相互協力し、より集客効果の向上を見込める。

Withコロナ時代の販路開拓推進 ～ オンラインを取り入れた展示商談会の開催について ～

主旨目的

アパレルファッション業界へ「次代を創る可能性素材」を提案する場

ファッション業界バイヤー・デザイナーは、通常では、生地を直接見て、肌で触れて質感を確認しながら素材を選ぶため、コロナ禍においても、現物との接点作りは必要不可欠。

最近のアパレル業界では、コロナ禍で生じた消費者ニーズの変化に対応するため、新たな製品の開発競争が起きており、コロナが拡大する現況においてもなお、リアルな素材選択の場を期待する声が高まっている。

これまでの取組

昨年度実績 (R1.11.5～6 東京・青山で開催)
出展企業数13社、来場者数540人

従来の開催方法

展示	<ul style="list-style-type: none">・ 東京の会場で生地を展示。・ <u>出展企業がブース内で商品を訴求。</u>
商談	<ul style="list-style-type: none">・ ブース内や商談テーブルで<u>来場者と出展企業が対面により商談。</u>



↑ 従来の展示商談会の様子 (令和元年度)

オンライン化に対応した取組み案

出展企業は基本的に現地入りせず、オンライン商談による参加で対応する。

オンライン化

展示	<ul style="list-style-type: none">・ 東京の会場で生地を展示。<u>リアルとオンラインを融合させた展示会企画実績のある専門業者に委託。</u>・ <u>出展企業は現地に行かず、自社オフィス等で、オンライン商談に備えて待機。</u>
商談	<ul style="list-style-type: none">・ 商談を希望する来場者は、<u>ブースに設置のタブレットを使って出展企業とオンライン商談。</u>・ 来場者自身が関心を持った企業に声掛けするので、<u>従来の形式に比べ高い成約率が見込める。</u>



↑ 出展企業は現地に入らず、タブレット端末を使用しオンライン商談